

**各 位**

党派を超えて国家的課題を追求する

**公益財団法人協和協会**

**時代を刷新する会**

両団体会長代行 岸 信 夫

両団体理事長 半 田 晴 久

新エネルギー委員長 中 島 稔

両団体専務理事 清 原 淳 平

## 新エネルギー委員会のお知らせ (第302回)

**日 時** 平成28年7月5日(火) 午後1時半～4時

**場 所** 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

**議 題** 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、中島委員長ご提供のエネルギーに関するビデオ視聴

—— 微生物発電、小水力発電、石炭火力発電について ——

3、『新エネルギー関連ニュース No. 157』

解説 中島稔新エネルギー委員長

**報 告** 去る6月7日開催の第301回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.156』の解説がありました。今回は、○経済産業省は、太陽光発電でつくった電気をためる家庭用蓄電池に補助金をだして普及を促す。○洋上で風力発電により電力で水素をつくり、船の燃料とする「燃料電池船」の実証試験を実施。○東京オリンピックの選手村を対象としたプロジェクトが始まる。水素ステーションや水素パイプライン、さらには電力・熱・水素を供給できる次世代燃料電池を導入する。○政府は「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」を開始し、26件のプロジェクト

トを促進中。○石炭火力の発電効率が従来の36%程度から、50%へ。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、東京都市大学准教授の高津淑人（こうづまさと）准教授より、「有害排水を出さずにバイオディーゼルを生成する技術」と題して解説がありました。使用済みのてんぷら油などの廃食油を原料とする軽油代替燃料・バイオディーゼル。再生可能エネルギーとして期待されているが、従来の製法では、①有害な廃水と②触媒（水酸化アルカリ）を含むグリセリンを副生する点が悩みの種だった。こうした問題を解決するため、①については、石灰石（酸化カルシウム）を使った溶けない触媒を開発することにより、有害な廃水が出ないシステムづくりに成功した。②については、グリセリンを燃料として使った後に残った触媒を道路舗装材として再利用することで解決した（前田道路と協同開発）。京都市の環境局もこの試みに協力している。廃食油を集め、1日に5トンのバイオディーゼルを生産。これを、93台の市営バス（バイオディーゼル20%添加）と150台のゴミ収集車（バイオディーゼル100%）で実際に使用・稼働させている。しかし、これを外販し、全国に広げていくためには、JIS規格やそれよりもさらに厳しい首都圏9都県市の条例をクリアしていかなければならない。そのためにはさらなる高品質化が必要だ。先生の構想としては「バイオディーゼル蒸留精製センター」を建設し、そこに品質が規格に満たないバイオディーゼルを集めて、蒸留法によって高品質化する、というもの。また、現在の想定コストは250円/ℓだが、将来的には100円以下にすることも不可能ではない。東京オリンピックに向けた燃料や資材としての利用を目標に、2018年頃の実現を目指している。

★当日会費 五百円 にご協力お願い申し上げます。

次回、7月5日（火）の新エネルギー委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様のFAX \_\_\_\_\_

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール [kiyohara@aurora.ocn.ne.jp](mailto:kiyohara@aurora.ocn.ne.jp)